



えん どう さとし  
遠 藤 敏  
(創政会)

- 診療所の休床化をやめるべきだ
- 災害対策本部の有事の体制をしっかりと

**質問** 厚生労働省は、有床の診療所は病院から早期に退院した患者を自宅近くで受け入れたり、在宅で療養中に病状が急変した患者を入院させる役割を担っている。大病院に比べ効率的にサービスを提供できるが、医師も看護師も少なく激務になりやすいので、診療報酬の2014年度改定で有床診療所への報酬増額を検討する方針を含んだ基本法案をまとめた。まさに地域に密着した有床診療所の重要性に国が気がついたものだ。休床化しなければ医師が来ないというが、有床の診療所だから医師が来ないとはならない。

**市長** 今の危機的な状況をいかに打開するかが何より大事である。労働環境をしっかりと示すことが医師の確保につながる。

**質問** 災害対策本部規定では、本庁の部及び課として支部、すなわち総合支所の分掌事務について示されているが、これだけでは職員は有事にどう動くか理

解できないと思う。具体的なマニュアルを作成し、項目ごとに係員の氏名を記載することによって全職員が有事に即対応できる体制となるのでないか。

**市長** その通りである。各総合支所の分掌事務を確認したところ、防災に関すること、情報収集に関するこのみで具体的に何をすることがない。これまで現地警戒本部を設置した経験がないことから、今後は具体的な形で今年の災害の経験を生かして作成しなければならない。

休床化の中止を必死に訴える市民(衣川説明会会場)



休床化の中止を必死に訴える市民(衣川説明会会場)



すが わら あきら  
菅 原 明  
(日本共産党)

- なぜ急ぐ、市立病院・診療所改革プラン
- 消防団員の費用弁償の検討・婦人消防協力会の統一を

**質問** 市長から示されている衣川、前沢診療所の入院病床の休床化については、大いに疑問を持たざるを得ない。理由は、住民説明会で、多くの市民から休床化はするべきではないとの意見が出たにも拘らず、推し進めようとしているからである。日本共産党議員団として、現在市内全域を対象に、市民生活についてのアンケート調査を実施している。その中で、改革プランについてどのように考えるかとの問いに、届いている分の集約は、衣川区は反対が100%、前沢区は、賛成が10%くらいで、反対と分らないを含めると90%台になっている。市長は住民説明会后、市民からの意見をどのようにに検討されたのか、12月中に検討結果の説明会を計画しているようだが、どのように進めるのか。

**市長** 検討した結果、現状のままでは、将来に不安を残す有床診療所の医師不足対策は進まないものと考え。診療所を休床化しても、安心して医療を受けられる体制を市が責任を持って講じていく。市立診療所の入院機能は他の公立医療施設の入院病棟に役割を委ね、外来医療に加えて、在宅医療を今後の重要な役割として担い、地域のかかりつけ医としての機能を果たしていくべきであると考えている。

**質問** 奥州市消防団員の費用弁償は、火災事故等に出動した場合、1回当たり千五百円支払われているが、予想外の災害時の出動は、別枠の費用弁償として取り扱うように検討するべきであると考えるがどうか。また、各区で活動されている婦人消防協力会の統合について、検討されているのか。

**市長** 災害時の出動時に支給する費用弁償の額については、手当ての額のみならず、支給形態についても、他市町村の例や、他の特別職とのバランスを考慮しながら検討していく。婦人消防協力会の統合については、これまで統合に向けた働きかけを行なったが、至っていない。今後も統合に向けて努力していく。



休床するな(衣川会場)